

知ってる？ いざって時に守ってる。

毎年、日本のどこかで必ずと言っていいほど起こっている災害。
台風は相変わらず心配なうえに局地的な豪雨が各地で頻発。水害のリスクは高まっているといえます。

そこでクイズです
大雨で増水した川から、町を守っているモノとは？

答え

堤防

まだ残ってる、堤防が「無い」場所。



山や町に降った雨は集まってたくさんの小さな川となり、それらが合流して大きな川になって海へ流れ込みます。利根川は上流の群馬県や栃木県など広い範囲で降った雨で増水することがあります。堤防は増水した川の水を安全に流すための構造物です。利根川下流河川事務所では、堤防のない別所地区(茨城県神栖市)、富川地区(千葉県銚子市)で堤防を作る工事を実施しています。

平成13年9月 台風15号による神栖市の浸水状況

それでも
堤防が壊れるなどの災害が発生した時、復旧活動の拠点となる施設とは？

答え

河川防災ステーション

ここは水辺とふれあえる場所…だけじゃない。



堤防が万一決壊すると広い範囲で甚大な被害が想定されます(1947年カスリーン台風では埼玉～東京まで浸水)。「水の郷さわら」には、災害が発生した時に被害を最小限にする活動の拠点となる河川防災ステーションが設けられています。災害時に使用する資機材を備蓄し、ヘリポートや資材の準備・搬出作業を行う水防ヤードなどが整備されています。普段は防災教育展示室や水辺交流センターとして利用されています。

国道356号そいに2010年にオープンした水の郷さわら(千葉県香取市)

さらに
地域の川があふれそうな時、町を守っているモノとは？

答え

排水機場

ポンプがなければ、すぐ水浸し。



上流に降った雨で大きな川が増水すると、地域を流れる川に逆流してしまうことがあります。その様な時には水門を閉じて増水した水の逆流を防ぎます。しかし、地域の川によっては、水門を閉じている間に降った雨がたまってあふれてしまいます。排水機場は、このような所で地域の川の水を排水するための施設です。利根川下流河川事務所では老朽化した戸田井排水機場(茨城県取手市)の改築を実施しています。

北浦川、北浦川水門、豊田堰、小貝川、戸田井排水機場

これだけ国が対策していても

市町村が避難場所や資機材の準備、洪水ハザードマップを整備したり、災害時に注意喚起や避難勧告などをして

身を守るために家庭の行動、周りの人たちの助け合いについて考えてみてください。

非常時に持ち出す荷物の準備しておく。避難場所や経路について確認しておく。雨量や水位などのリアルタイム情報を把握する。高齢者や子どもへの避難誘導・救助を行うなど、周りの人たちと助け合う。

避難場所や洪水ハザードマップを知らない人がいるかも。避難できない状況になるかも。

堤防や排水機場を整備中に増水するかも。想定を超える大雨が長時間降るかも。

だから

